

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名		佐賀県立唐津東中学校	
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、11の方策の数値設定を修正し、実態に即した目標になった。3年間あるいは6年間の長期的視野を持ち、指導ビジョンや効果について検証していく。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を学校行事を通して、あるいは道徳教育等を通して取り組み、ある程度の結果を残せた。 いじめの早期発見・早期対応に努め、教職員間での情報共有や保護者への迅速な連絡・相談に努めてきた。別室登校支援員の配置も決まり、教育相談、特別支援教育的側面からの生徒支援の充実を今後も図っていきたい。 ・グローバルな活躍を目指す生徒や旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に向けて、海外研修や国際交流に積極的にチャレンジする生徒が多かった。次年度もさらに発展させたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進や部活動の休養日については、教職員一人ひとりの意識改革も必要であるが、学校全体で取り組む業務改善の目標を設定し、あわせて業務の平準化を今後も進めていく。		
2 学校教育目標	○北部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○120年以上の歴史を持つ唐津市の伝統校として、地域の行政機関や各学校、地域の方々と連携した活動の中で、高い志と主体的に生きる力を身に付け、地域や国際社会の発展に貢献できる逞しい人材を育成する。		
3 本年度の重点目標	①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○各教科において「授業を意欲的に受けている」と回答をした生徒80%以上。 ○授業参観後のレポート提出とその後の授業の改善についての比較検証。	・教師間授業参観の実施(6月・11月)により、授業の質の向上を図る。 ・教科研修会(6月・11月)を実施し、互いの問題点を話し合い、全体的な授業の質の向上につなげる。
	○学力向上	○全国模試の学力推移調査において、Benesseの指標A1以上の生徒を、中1は20名以上、中2は25名以上、中3は30名以上。	・学力推移調査や学習状況調査の結果をもとに学力分析会を実施し、各学年や教科で課題を洗い出すことで、効果的な授業改善を行う。
	○家庭学習の習慣化	○「家庭学習は十分にできている」と肯定的な回答をした生徒80%以上。	・Classiを活用して家庭学習の記録を習慣化させることで、学習意欲の喚起につなげる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎道徳アンケートを1月に実施し、「人との関わりに関すること」と「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の項目で肯定的な回答をした生徒を80%以上。 ○「情報モラルを守って行動できた」と肯定的な回答をした生徒80%以上。	・「生命を大切にすること」「自他を認め合うこと」を重点目標とし、人権教育と連携する。 ・職員室の道徳コーナーを活用し、教材の共有等、学年をこえて学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。 ・生徒指導と連携して外部講師による情報モラル講演会を実施する。 ・道徳学習の題材に情報モラルに関する内容を取り扱い、意識を高める。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、「組織的対応ができています」と回答した教員90%以上。	・いじめに関する教職員研修を実施する。 ・定期的に「生徒理解協議会」を実施し、生徒情報の把握と職員間の情報共有に努め、生徒支援につなげる。また、いじめの未然防止の取り組みにつなげる。 ・いじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「自分の適性や進路希望を生かした指導が行われている」および「講演会やオープンキャンパスなどは自分の将来に役立つものとなっている」と肯定的な回答をした生徒80%以上。	・面談や授業を通して生徒の思いや状況を的確に把握し、進路に関する適切な情報提供や支援を行う。 ・キャリアに関する講演会や体験的活動を通して、生徒が自分自身を見つめ、将来のあり方を探究する機会を設ける。
	◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成	◎「グローバルに活躍したいか」および「物事に積極的に挑戦したいか」について、肯定的な回答をした生徒80%以上。	・ネイティブスピーカーを招いた英会話体験プログラムを企画・運営する。 ・修学旅行を通して、自国に対する理解を深め、視野を広げる取り組みを行う。 ・韓国への海外研修の企画・運営を行う。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上。	・「ほけんだより」等を通して、食育に関する情報を提供する。 ・学級や部活動党において様々な機会をみつけ、食に関する話を行うことで、生徒の食に関する意識を高める。 ・家庭科や保健体育科で食に関連する学習を行い、そこで学習したことを他教科や行事などで喚起できるようにする。 ・生徒の委員会活動で、食育に関する活動を入れる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。 ○部活動方針に基づいた休養日の設定と取得	・定時退勤推進日(月曜)設定と啓発を行う。 ・夏季休業中に学校閉庁日(8/8～15)を設定し、休暇を取得しやすい環境をつくる。 ・職員の毎月の時間外在校等時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・職員に年休取得状況(上期)を知らせ、計画的な年休取得を促す。 ・部活動休養日(週2日以上)取得する。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識向上と共通理解の促進	○特別支援教育の視点で生徒の対応を行った職員80%以上。	・定期的に、生徒理解委員会を開催し、発達障害や学習障害についての情報共有や対応について協議する。 ・職員研修を学期に1回実施をする。 ・研修において、教職員が具体的な支援方法を事例を通して考える機会を持つ。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○別室登校に関する支援体制の確立	○不登校や別室登校生徒の学びの保障	○不登校生徒のうち、別室や家庭等において学習に取り組むことができた生徒70%以上。	・別室における学習支援(プリント配布やPC学習課題、オンライン配信)を確実に実施し、学習内容を記録していく。 ・家庭において授業のオンライン視聴をできるよう、学校の環境整備を行う。 ・生徒の状態に応じて、適応指導教室などの外部機関へつないでいく。
	○学校生活支援員の支援体制の確立	○学校生活支援員(本年度から配置)やオンライン授業配信支援員による支援体制と環境整備を、上半期(9月)までに整える。	・生徒理解委員会において、定期的に不登校生徒の状態や支援方法について、スクールカウンセラーから助言を得る。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・		